

ボルソナーロ新政権の発足と 最近のブラジル情勢

2019年2月
在ブラジル日本国大使
山田 彰

2018年大統領選挙の結果

1. 選挙概要

- 史上二番目に多い計13人の候補が出馬(以下, 第一回投票の得票順)。
- 服役中(第二審で12年1か月の有罪判決)のルーラ元大統領は国内法規定のため出馬できず。



①ボルソナーロ下院議員
SP州、PSL(右派)



②アダッジ候補
SP州、PT(左派)



③ゴメス元財相
SP州、PDT(中道左派)



④アルキミン元SP知事
SP州、PSDB(中道左派)



⑤アモエド候補
RJ州、NOVO



⑥ダシオロ下院議員
SC州、Patriota



⑦メイレス元財相
GO州、MDB(中道右派)



⑧シルヴァ元環境相
アクレ州、REDE(左派)



⑨ディアス上院議員
SP州、PODE



⑩パウロスMTST代表
SP州、PSOL(左派)



⑪ヴェーラ候補
ペルナンブコ州、PSTU



⑫エイマエル候補
RGS州、DC



⑬グラール候補
RJ州、PPL

2. 選挙結果

- 第一回投票(10月7日)では, いずれの候補も過半数に満たず(ボルソナーロ:46.66%, アダッジ:28.43%)。
- 決選投票(10月28日)では, ボルソナーロ:55.13%, アダッジ:44.87%(選挙高等裁判所発表)。
- 伝統的な選挙予想・分析は, ことごとく外れる結果に。

【ボルソナーロ候補当選の要因】

- ★国民の政治不信(汚職スキャンダル, 治安の悪化, 不景気)の受け皿に。
- ★PT政権(2003年~2016年8月)の経済失政に対する批判(PT嫌い)。
- ★汚職対策と治安対策を前面に掲げたボルソナーロへの期待感。ボルソナーロ旋風へ。
- ★SNSを主体とする選挙戦術の成功(ブラジル国民のSNS利用率は世界屈指。政見放送の影響力低下)。
- ★選挙戦中の9月に刃物で刺され入院。同情論が強まり, メディア露出は増加。対立候補の批判も停滞。



ボルソナーロ大統領について

■氏名: ジャイル・メシアス・ボルソナーロ (Sr. Jair Messias Bolsonaro)

■生年月日: 1955年3月21日(63歳)

■出身地: サンパウロ州カンピナス市

■学歴: 陸軍士官学校卒(1977年)

■経歴: 1979年～1988年 陸軍軍人(最高位は大尉: capitão)

1989年～1991年 リオデジャネイロ市議会議員

1991年～2018年 連邦下院議員(PSL: 自由社会党)

2019年1月～ ブラジル連邦共和国大統領

■横顔:

●選挙中、「極右」のレッテルを貼られたが、実像は「急進的な右派」か。

●「ブラジルのトランプ」と言われ、親米を自認。ただし、スローガンの

“*Brasil acima de tudo, Deus acima de todos*”は「ブラジル・ファースト」ではなく、

「何よりもブラジルのために、神のために」と国家への貢献と忠誠を誓う意味。

●前妻2人との間に4男(うち3人が議員)、ミシェリ現夫人(36歳)との間に1女(7歳)。

●長い議員生活にもかかわらず、不正疑惑は特に浮上せず。クリーンな一面も。

●昨年9月の刺傷は重傷で、その後、本年1月までに3度の手術を受けた。

■対日関係:

●サンパウロ州で育ち、日系社会とも近く、大の親日家。

●選挙中の2018年2月に訪日。浜松市と大泉町のブラジル人社会は大歓迎。

(日本での在外投票は、第1回投票で8割、決選投票で9割の得票)

●山田大使との懇談時に、「日本が大好き。日本の友人だと思って欲しい」と発言。



2019年1月、日伯首脳会談(ダボス)



大統領に日本酒を贈呈

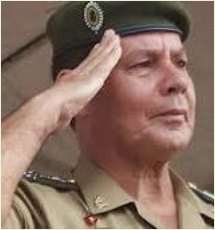
ボルソナーロ政権について

1. 政策方針

- 利益調整型政治を否定。閣僚人事も政党間ネゴではなく人物本位で任命(閣僚23名中8名が軍人出身)。
- 治安改善と汚職撲滅(総合的な犯罪対策法案を提出), 年金制度改革, 税制改革等が最重要課題。
- ラヴァ・ジャット捜査担当のモロ判事を法務・治安大臣に抜擢。治安対策, 汚職撲滅を強力に推進。
- 財政規律重視, 小さな政府(官僚主義撤廃), 市場開放, 民営化促進(経済大臣に自由主義経済学者を登用)。
- 環境規制や先住民保護規制を緩和し, 農業生産力の強化を目指す。
- 外交は国益重視。左派国家を警戒。人権, 移民等の国際アジェンダに慎重か。メルコスール関係も再検討中。

★今後, 諸改革実現のため, 議会での多数支持獲得が課題。

2. 主要閣僚



モウラオン副大統領(65)

- ・元陸軍大将
- ・政権内で存在感薄い



ロレンゾーニ文官長(64)

- ・大統領の盟友
- ・2018年2月訪日



ゲデス経済大臣(69)

- ・自由主義(シカゴ学派)
- ・財務, 企画, 産業貿易を所掌するスーパー大臣



モーロ法務・治安大臣(46)

- ・ラヴァジャット捜査判事
- ・汚職対策強化に期待



アラウージョ外務大臣(51)

- ・前外務省北・加・米州担当局長
- ・左派敵視。グローバリズム警戒



クリスティーナ
農務大臣(64)

- ・農業議連会長
- ・新政権の積極的な農業開発を推進



エレノ
安全保障局長官(71)

- ・大統領の側近中の側近
- ・元陸軍大将
- ・国連ハイチ安定化ミッション初代指揮官



サントス・クルース
政府調整庁長官(66)

- ・元陸軍中將
- ・国際PKO指揮官歴(ハイチ, コンゴ民)



ポンテス
科学技術革新通信大臣(55)

- ・元空軍中佐
- ・宇宙飛行士(ブラジル初)

議会制度と政党勢力分布



連邦議会議事堂(1960年完成)

【上院】(写真左側)

- ・議席数: 81
- ・任期: 8年
- ・議長: ダヴィ・アルコロンブレ (DEM)
- ・選挙: 4年ごと1名/2名改選。
各州定数は3名。

【下院】(写真右側)

- ・議席数: 513
- ・任期: 4年
- ・議長: ロドリゴ・マイア (DEM) (2期連続)
- ・選挙: 各州の非拘束名簿式比例代表制。
各州定数は人口比例による。

政党別議席数

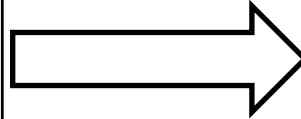
《前期議会(2019年1月31日まで)》

政党名(上位10党/全35党)	上院(81)	下院(513)	合計(594)
1. PT(労働者党)	9	61	70
2. MDB(伯民主運動)	18	51	69
3. PSDB(伯社会民主党)	12	49	61
4. PP(進歩党)	5	49	54
5. DEM(民主党)	5	43	48
6. PR(共和党)	4	40	44
7. PSD(社会民主党)	5	38	43
8. PSB(伯社会党)	4	26	30
9. PRB(伯共和党)	2	21	23
10. PDT(民主労働党)	3	19	22
※青が中道右派(与党) ※赤が左派・中道左派(野党)			
計	67	397	464
その他の政党	14	116	130

《今期議会(2019年2月1日～)》

政党名(上位10党/全35党)	上院(81)	下院(513)	合計(594)
1. PT(労働者党)	6	54	60
2. PSL(自由社会党)	4	52	56
3. MDB(伯民主運動)	12	34	46
4. PP(進歩党)	5	38	43
5. PSD(社会民主党)	7	33	40
6. PSDB(伯社会民主党)	9	29	38
7. DEM(民主党)	6	28	34
8. PR(共和党)	2	33	35
9. PSB(伯社会党)	2	32	34
10. PDT(民主労働党)	4	28	32
※青が右派・中道右派(与党) ※赤が左派・中道左派(野党)			
計	57	361	420
その他の政党	24	152	174

選挙後



・PSLが躍進。
・上位10党の割合低下
(更なる議席細分化)

(議席数は2018年10月7日選挙前時点)

(議席数は2019年1月31日時点)

最近のブラジル経済情勢

【現状】

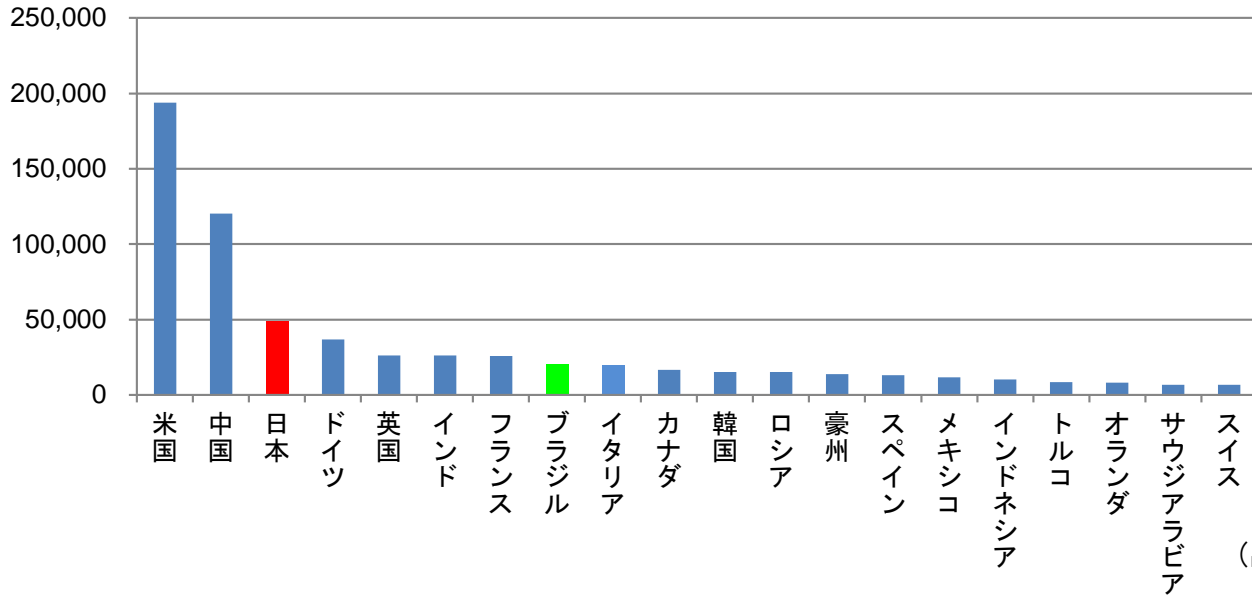
- GDPは、世界第8位の経済規模(日本の約42%)。一人当たりGDPは9,895ドル(日本の約25%)
- ブラジル経済は、2年連続のマイナス成長(▲3.5%(15年), ▲3.5%(16年))を記録する深刻な景気後退を経て、2017年に底を打ち(1.0%), 2018年以降は更なる回復の見込み(IMF: 1.3%(18年推測値), 2.5%(19年予測値))。
- 失業率は改善傾向も依然として高止まり(11.6%)。平均所得は約2,250リアル(約67,500円)。
- インフレ率は3.75%(2018年12月までの12か月累計)でインフレ目標(4.5%±1.5%)の範囲内。政策金利は史上最低の年率6.5%を6会合連続で据え置き。



- テメル政権下で、本格的な景気回復と持続可能な成長を目指す政策が実行された。
 - (1) 財政・・・歳出の伸び率の上限を前年のインフレ率とする(=実質伸び率ゼロ)憲法改正が成立。
 - (2) 労働法・・・70年ぶりの労働法改正により、労使間で柔軟な労働条件交渉が可能に。
- ボルソナーロ政権では、年金制度改革, 税制改革, 国営企業の民営化といった構造改革が引き続き課題。元投資銀行家のパウロ・ゲデス経済大臣が構造改革を推進。
 - (1) 財政・・・就任1年目に財政赤字を解消し, 2年目に黒字化することが目標。
 - (2) 年金制度・・・年金の受給開始年齢, 積立方式の導入など。
 - (3) 税制・・・複雑な税制の簡素化・統合, 減税の推進。
 - (4) 国営企業の民営化・・・ブラジル電力公社(エトロブラス)等のインフラ企業の民営化促進。
 - (5) 対外経済開放・・・FTA締結や規制緩和により, 貿易や海外からの直接投資を拡大。

ブラジル経済指標①(GDP)

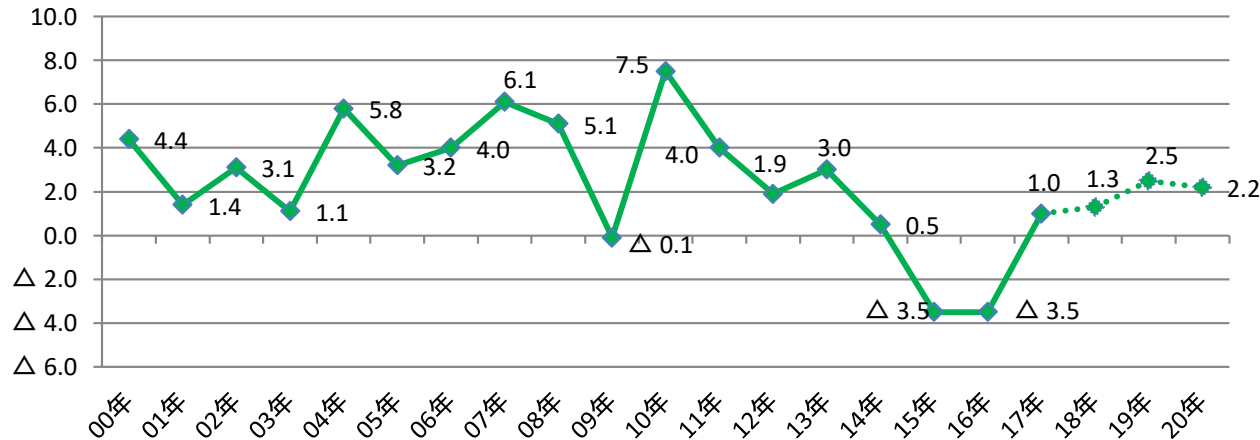
名目GDP (2017年)



- 世界第8位の経済規模 (日本の約4割)。
- 一人当たりGDPは日本の約25% (9,895ドル)。

(出典) IMF

実質GDP成長率 (前年比)

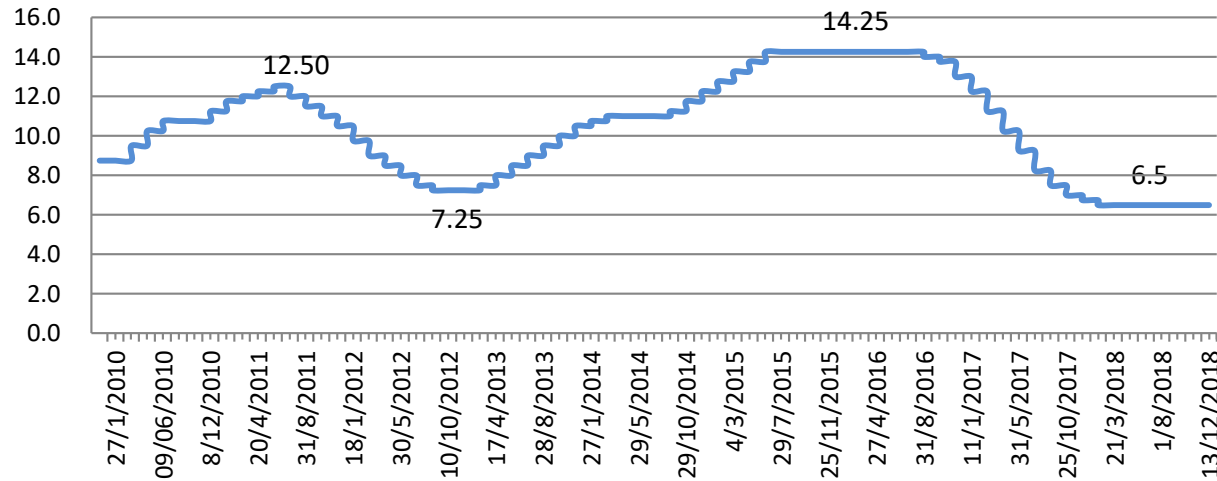


- 2年連続のマイナス成長を記録した後、2017年より緩やかな回復基調にある。
- 2015年: ▲3.5%
- 2016年: ▲3.5%
- 2017年: 1.0%
- 2018年: 1.3% (IMF推測値)
- 2019年: 2.5% (IMF予測値)
- 2020年: 2.2% (IMF予測値)

(出典) ブラジル地理統計院、IMF

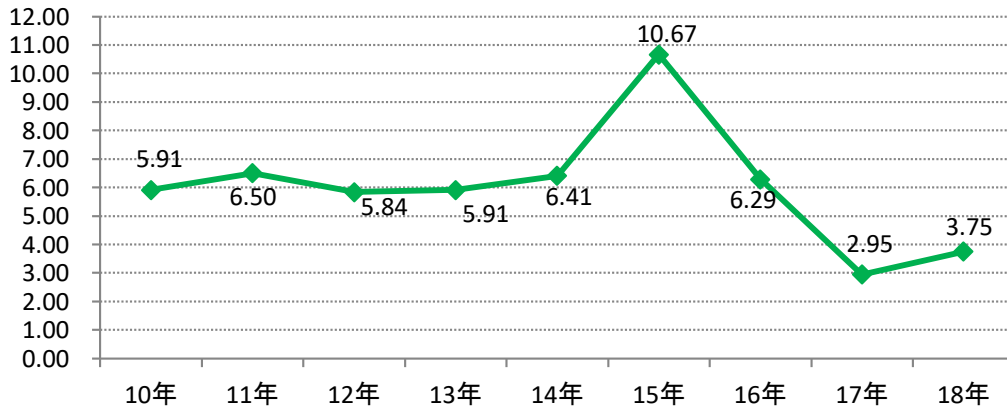
ブラジル経済指標②(政策金利、インフレ率、失業率)

(%) 政策金利(Selic)の動き(2010年~2018年12月)



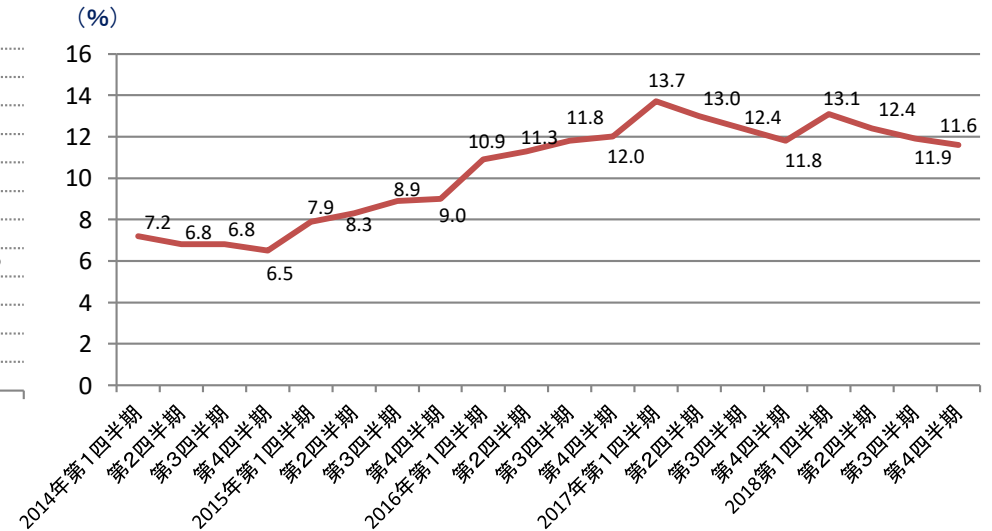
(出典) 伯中央銀行

(%) 拡大消費者物価指数 (IPCA) インフレ率 (12ヶ月累計)



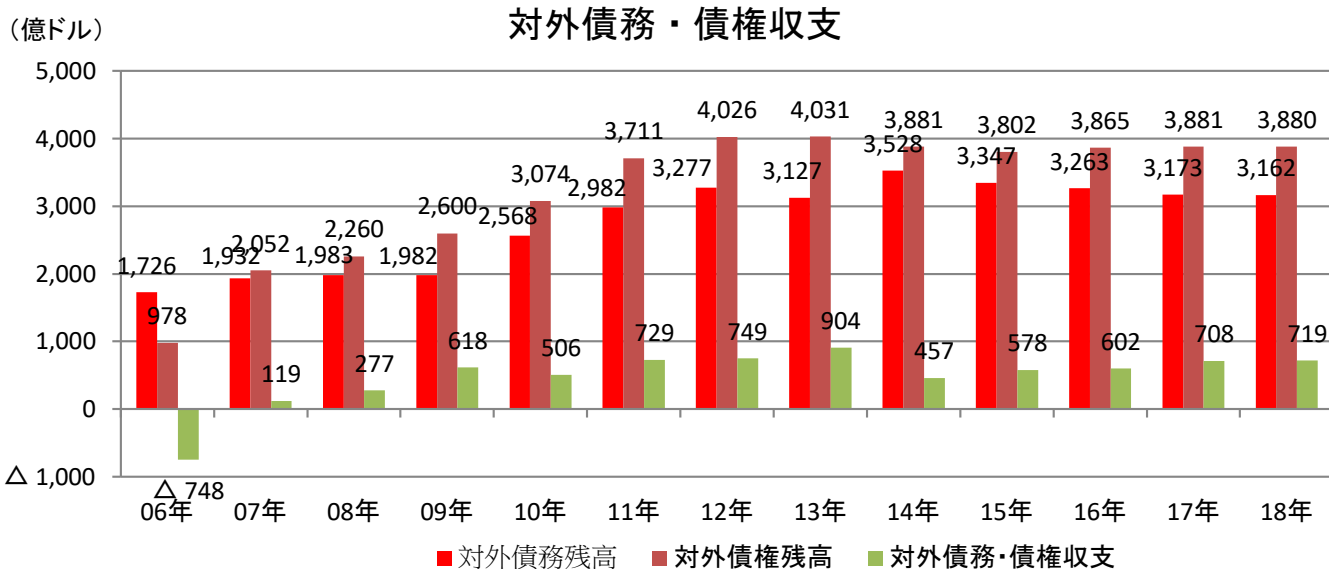
(出典) ブラジル地理統計院

(%) 失業率 (3か月の移動平均)



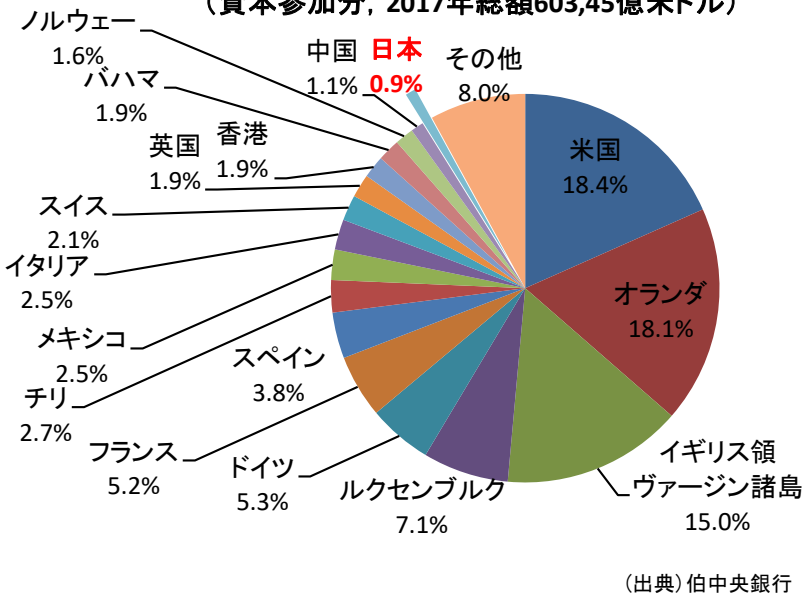
(出典) ブラジル地理統計院

ブラジル経済指標③(対外債務、対伯投資)

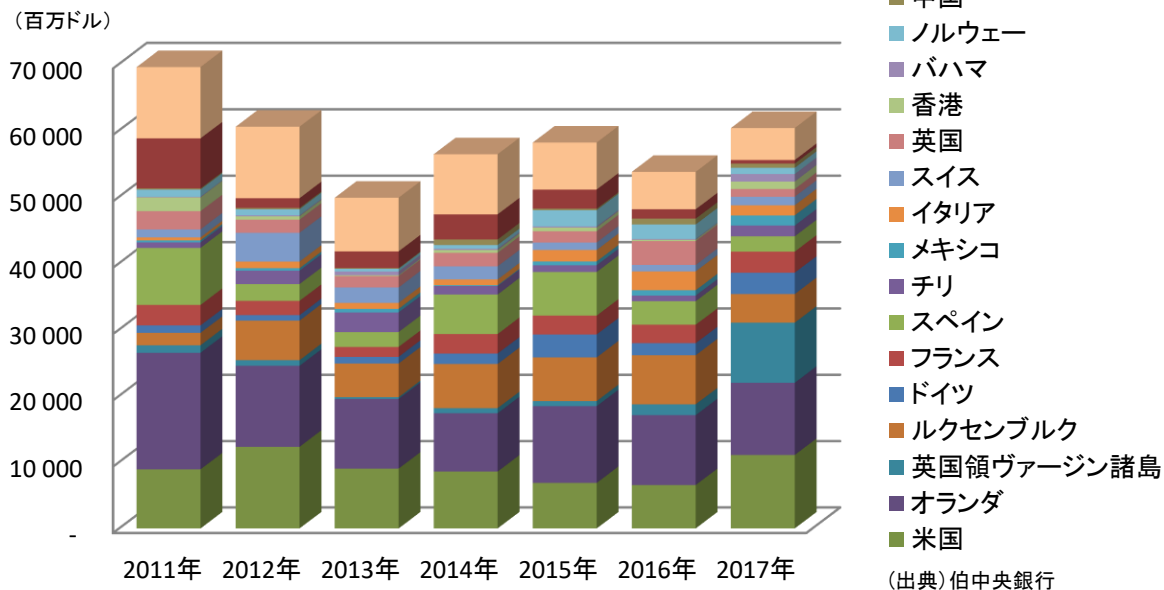


07年に対外債権(外貨準備高, 対外融資等)が対外債務を上回り, 以後, 純債権国。

対ブラジル直接投資
(資本参加分, 2017年総額603,45億米ドル)

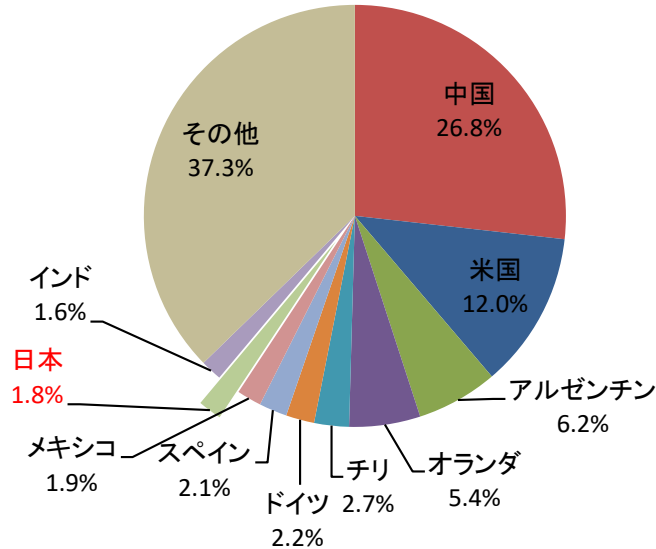


対ブラジル直接投資(資本参加分)

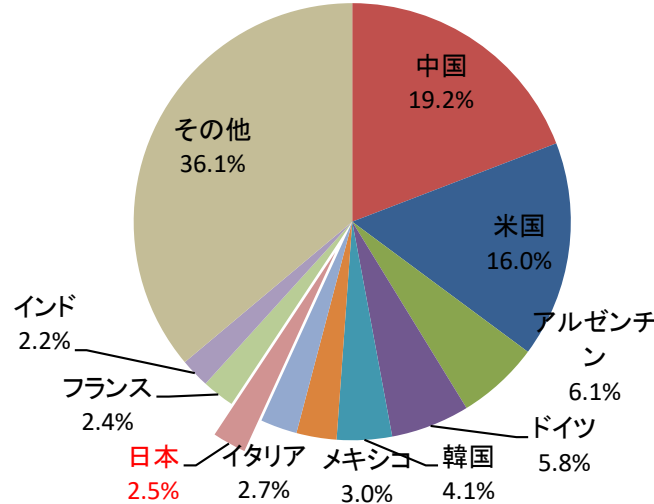


ブラジル経済指標④(貿易)

ブラジルの輸出相手国(2018年)
(総額2,398.89億米ドル)



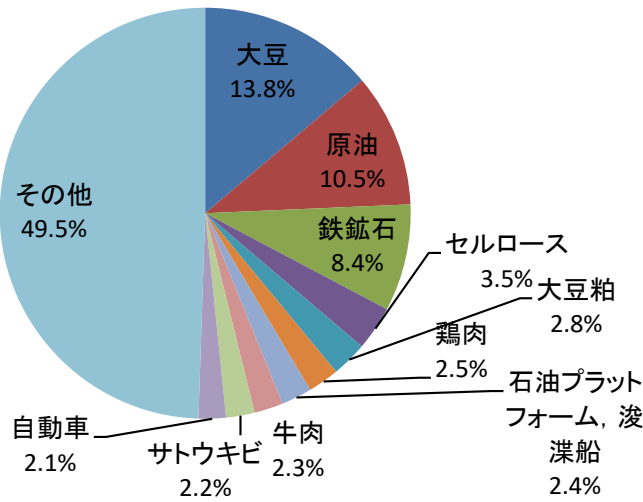
ブラジルの輸入相手国(2018年)
(1,812.31億米ドル)



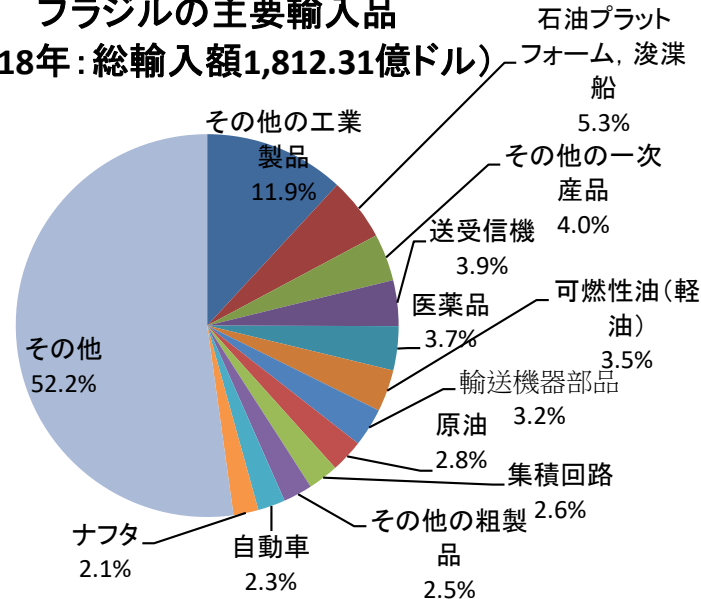
●輸出・輸入とも中国, 米国, アルゼンチンが上位。日本の占める割合はこれらの国と比べると小さい。

●輸出は大豆, 鉄鉱石, 原油等の一次産品, 輸入は工業製品が中心。

ブラジルの主要輸出品
(2018年:総輸出額2,398.89億ドル)

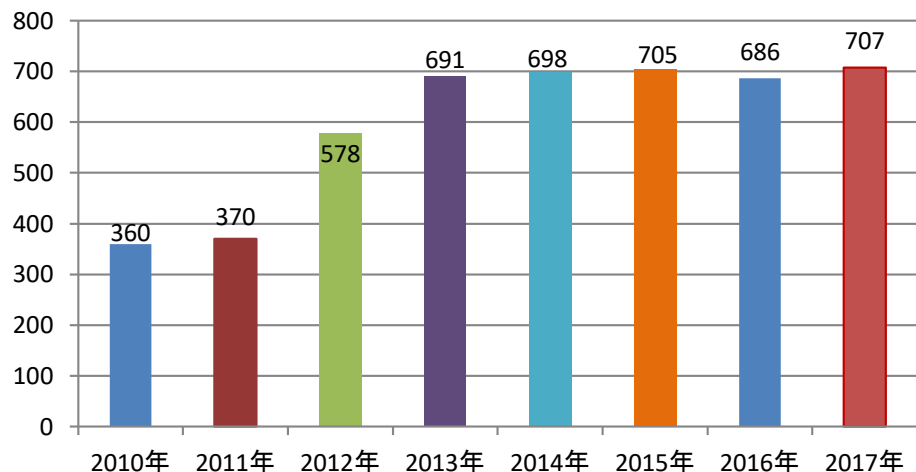


ブラジルの主要輸入品
(2018年:総輸入額1,812.31億ドル)



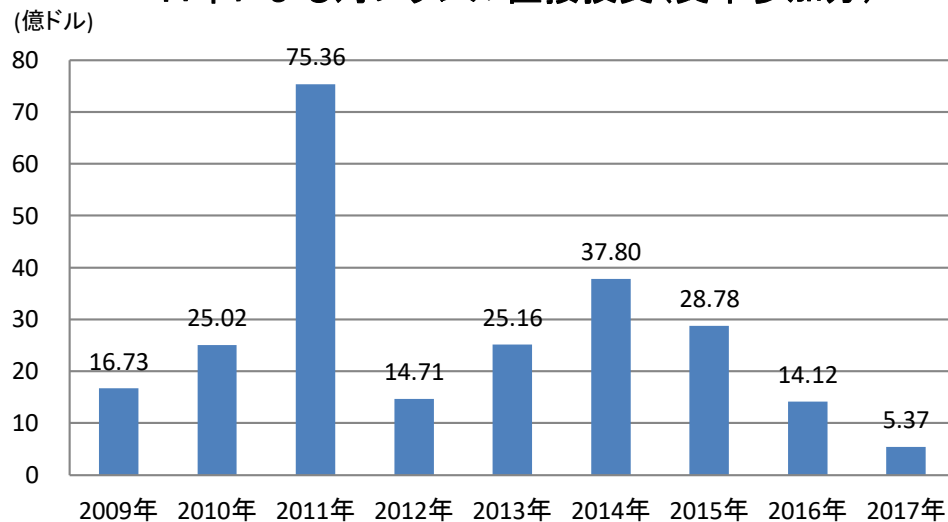
日本・ブラジル経済関係①

ブラジルに進出している日本企業数



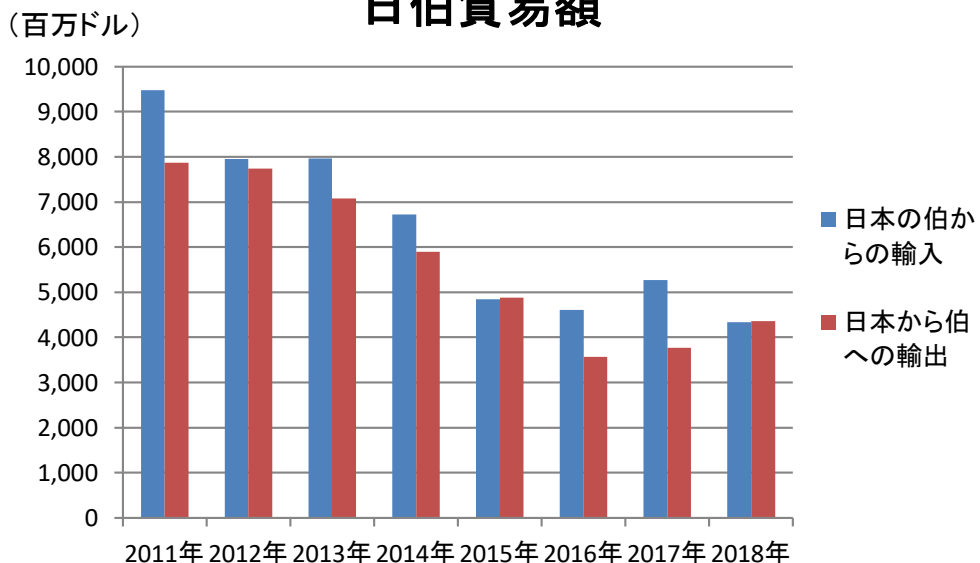
(出典) 外務省海外在留邦人数調査統計

日本による対ブラジル直接投資(資本参加分)



(出典) 伯中央銀行

日伯貿易額



(出典) 伯経済省

【JBIC海外直接投資アンケート】

Q: ブラジルへの事業展開見通しは？

(2018年度海外直接投資アンケート結果, 116社回答)

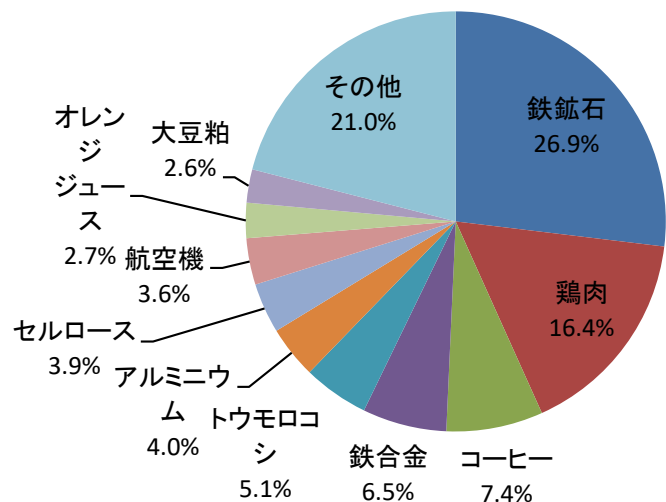
- 強化・拡大 : 45.7%
- 現状程度維持 : 52.6%
- 縮小・撤退 : 1.7%

(参考: 2017年度海外直接投資アンケート結果, 112社回答)

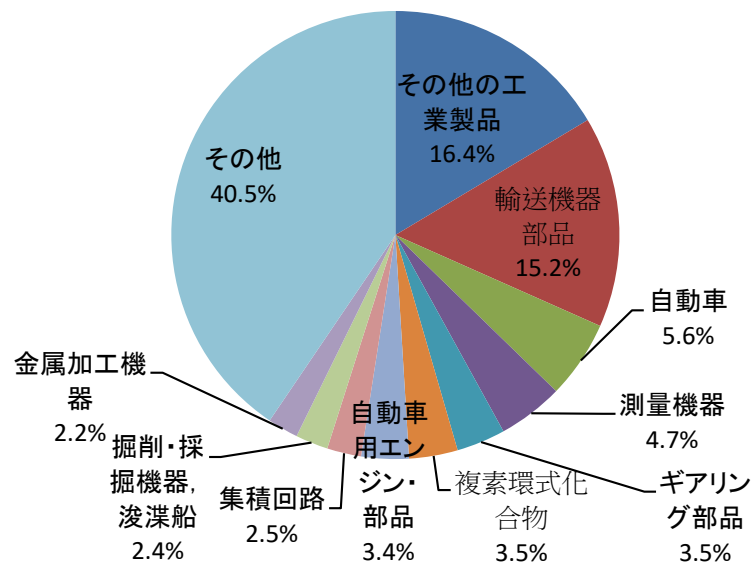
- 強化・拡大 : 42.9%
- 現状程度維持 : 53.6%
- 縮小・撤退 : 3.6%

日本・ブラジル経済関係②

ブラジルの対日輸出
(2018年:総額43.34億ドル)



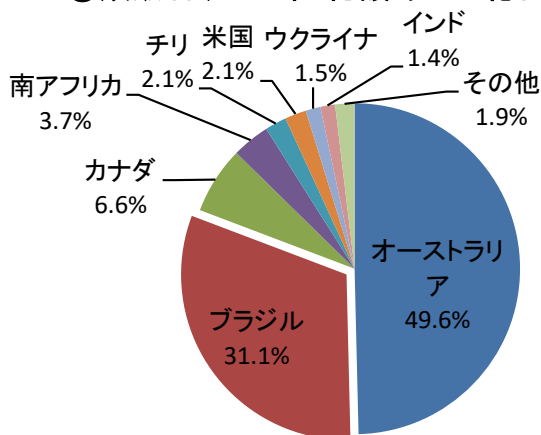
ブラジルの対日輸入
(2018年:総額43.56億ドル)



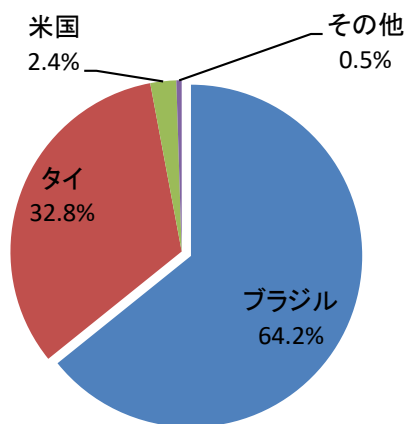
(出典) 伯経済省

日本は多くの鉱物・農牧産品をブラジルから輸入

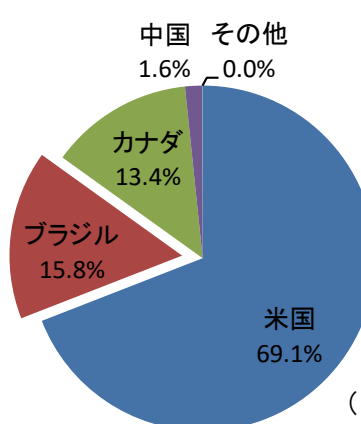
①鉄鉱石(2018年:総額1兆284億円)



②鶏肉(2018年:総額1313億円)



③大豆(2018年:総額1701億円)



【その他、ブラジルが日本の主要輸入元の産品】
 ・ニオブ:1位
 ・コーヒー:1位
 ・とうもろこし:2位
 ・パルプ:3位

(出典) 日本財務省

日・メルコスールEPAの動向

1. ブラジル新政権の貿易政策

- ・基本方針: 貿易自由化を志向。具体的な政策は引き続き要注視。
- ・二国間FTA交渉の可能性: 継続中のFTA交渉は引き続きメルコスールとして交渉。新たに開始するものはメルコスールとしてではなく二国間FTA交渉を追求する可能性あり。明確な方針が定まっているわけではない。米国との何らかの協定交渉の可能性については要注視。
- ・対外共通関税の見直し: 資本財, IT製品等の関税削減について検討中の模様。

2. メルコスールが交渉中のFTA

- ・EU(2000年~): 主な懸案事項は物品貿易の市場アクセス(EU側の農産品(肉, 砂糖等), メルコスール側の自動車等), GI(地理的表示)等。欧州議会選挙(本年5月)の影響を要注視。
- ・EFTA(2017年6月~), カナダ(2018年3月~): 比較的順調。年内妥結の可能性あり?(投資保護の扱いは要注視。)
- ・シンガポール(2018年7月~), 韓国(2018年9月~): 交渉は初期段階。

3. 2018年の主な動き

- ・2018年2月, 伯政府が日本及び韓国とのFTAにつきパブリック・コンサルテーションを実施。
- ・2018年3月, ブラジル日本商工会議所が日・メルコスールEPA準備タスクフォースを立ち上げ。8回の会合を開催。
 - ー日系企業の意識調査を実施(2018年5月)。84%の企業が日・メルコスールEPAの「必要性を感じる」。
 - ー引き続き日・メルコスールEPAの締結に期待。
- ・2018年4月, 日伯賢人会議(リオ)が日・メルコスールEPAの交渉開始を提言。
- ・2018年7月, 日伯経済合同委員会(東京)で, 経団連とCNI(伯産業連盟)が日・メルコスールEPAの早期締結を求める共同報告書を採択。
- ・2018年10月, 経団連及び日商が日・メルコスールEPA交渉の早期開始を求める提言を菅官房長官に提出。

2018年の主な日伯交流(日本人ブラジル移住110年)

<2018年の主な出来事>

- 2月 ボルソナーロ大統領(当時候補者)の訪日
- 3月 皇太子殿下の御訪問(世界水フォーラム御臨席)
- 4月 オリヴェイラ上院議長の訪日, 山本防衛副大臣の訪伯
- 5月 ヌネス外務大臣の訪日, 河野外務大臣のサンパウロ訪問
- 6月 連邦下院・110周年記念式典
- 7月 眞子内親王殿下の御訪問, 笹川環境政務官の訪伯
- 8月 連邦上院・110周年特別式典, 宮腰総理補佐官の訪伯

※2019年はアマゾン移住90周年(9月13日トメアス, 14日ベレン, 15日マナウスで記念式典)



皇太子殿下(世界水フォーラム)



5州14都市を訪問された眞子内親王殿下



★日系社会との連携強化のための様々な施策(日本祭り支援のための訪日招聘, 若手日系人の横断的なネットワーク構築を支援するため行事を大使館で開催等)

★2018年10月下院選挙で, 日系のキン・カタギリ下院議員(23歳)が初当選。

